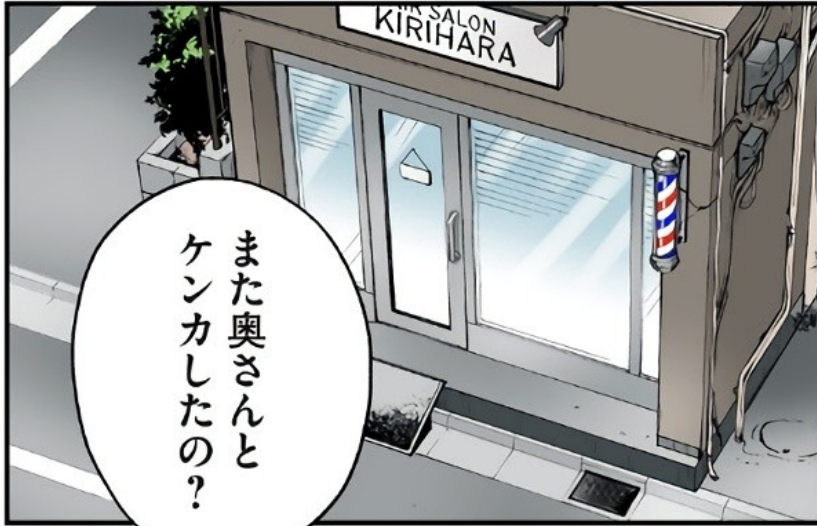
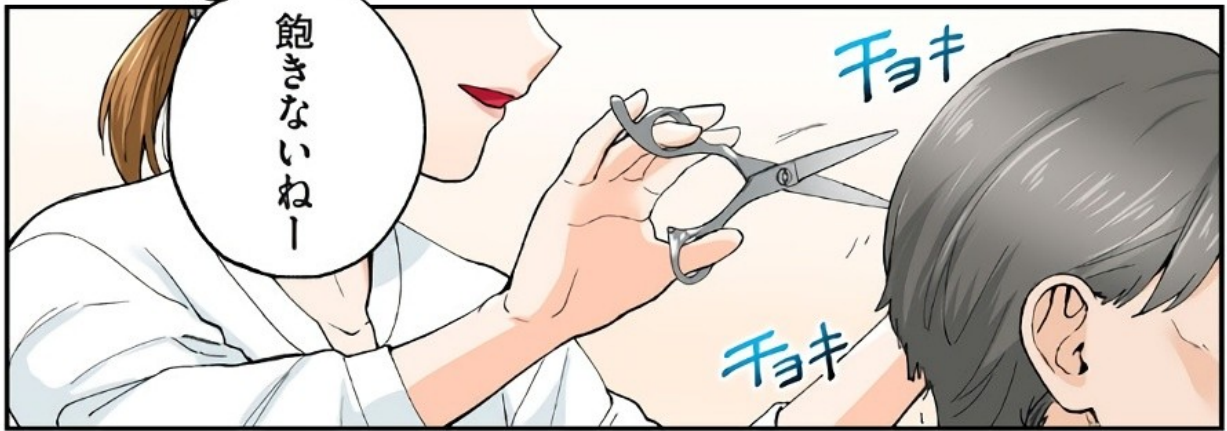


## C O N T E N T S

|      |                |    |
|------|----------------|----|
| 35本目 | 桐原 紗莉 その後…     | 3  |
| 36本目 | 浪人時代の予備校先生の唇は… | 45 |
|      | 19巻試し読み        | 93 |



また奥さんと  
ケンカしたの？



飽きないねー



はいはい…  
飲み会ならまた今度ね  
この後予約が  
入ってるからさ



寂しいなんて  
もうとっくに  
慣れたっての



うち？  
…気楽なもんよ  
旦那は  
トミック野郎で  
相変わらず家に  
いないし



千ヨキ

千ヨキ

そんなことないと思っけど？  
いつもどおりよ



千ヨキ

え…  
今日は機嫌が  
良いって…



そんなだから奥さんに  
怒られるんじゃない



さつきから他所の  
アラフォー女相手に  
肌艶はだつやが良いだの  
若返っただの  
口説き文句並べて…



千ヨキ





桐原 紗莉…

しがたない街の  
理髪店店主

はい…どお？  
いつもどおりの  
長さだけど

35本目  
桐原 紗莉 その後…



いい歳としなんだから  
飲みすぎには  
気をつけなさいよ



成人した  
子供たちが  
巣立った家で

今もこうして  
仕事を  
続けている



今日このあと  
予約を入れているのは  
常連客である  
男子大学生



今日も飲みすぎ  
ちやうんだらうな



なんて  
人のこと言えない  
けど…



ちにし

そのあと晩飯でも  
ご馳走してやるうかと  
自宅に上げ

ついでに晩酌に  
付き合わせた  
ところ

おろまつ  
おろまつ

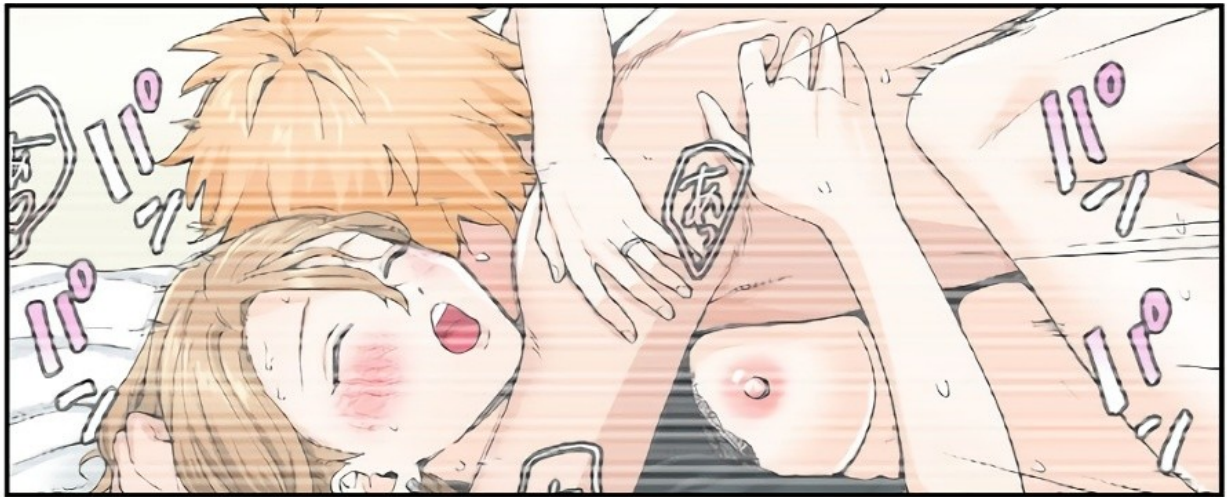


以前は  
髪が伸びたら  
気まぐれに  
うちへ切りに  
来ていたが…



イメチェン？  
長期間  
店を閉めていた  
ある日

ええまあ  
それも  
いかなーと…  
伸びすぎたその  
プリン頭を見かねて  
切ってあげる  
ことになり…



それ以来  
その彼には定期的に  
予約を入れてもらう  
ようになっていた

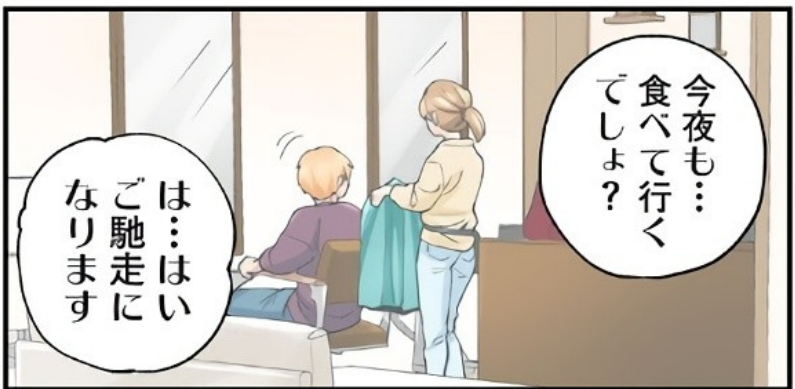
午後遅めの…  
夕食前の時間に



いくら人肌が  
恋しかったからって  
まさか息子よりも  
年下の子と…ねえ

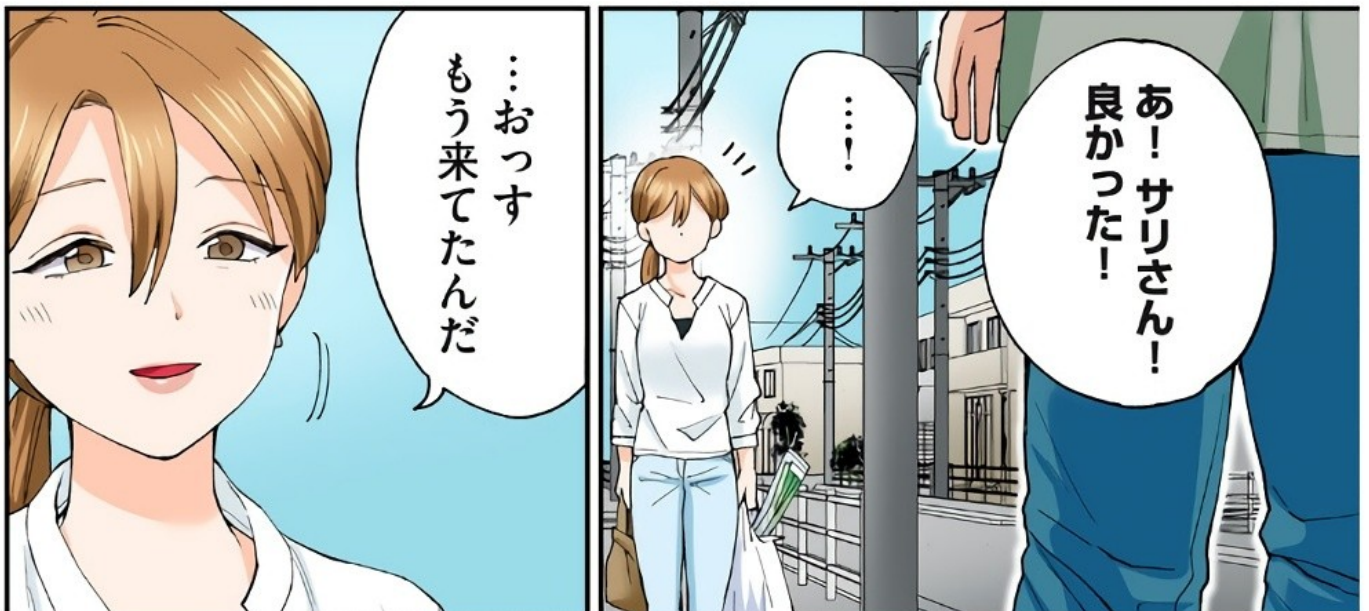
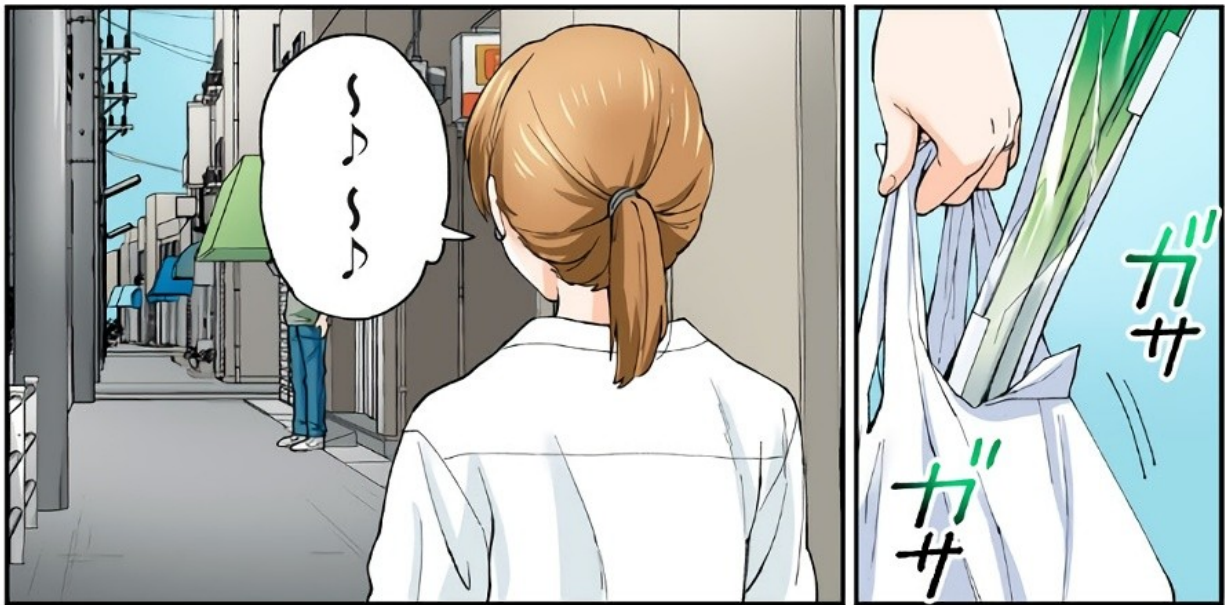
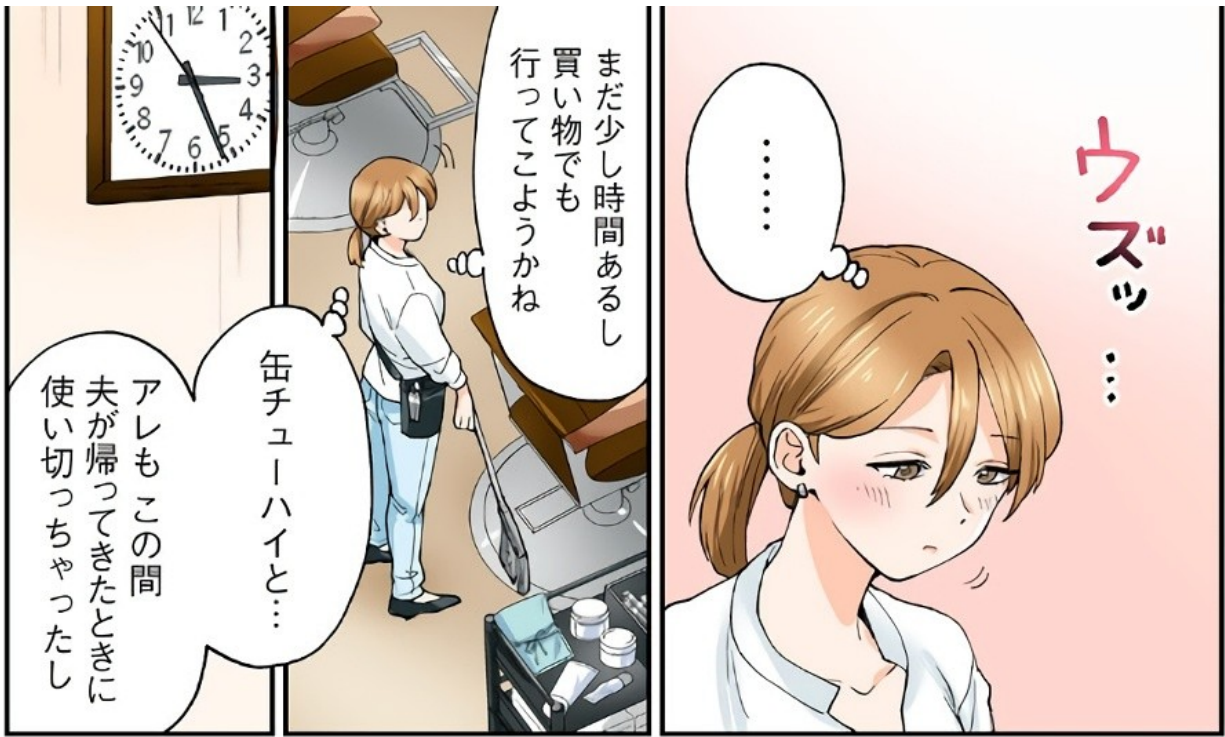


ツヨシ…  
待って…♥  
そんなガツツかれ  
たら…私…  
身体が持たな…  
ツヨシイ♥



は…はい  
ご馳走に  
なります

今夜も…  
食べて行く  
でしょ？







それで  
サークルの後輩から  
知り合いの美容師の  
カットモデル  
頼まれちゃって〜

へー…  
似合ってる  
じゃん



へ…へ…  
今どきはこんな髪が  
モてるんだねー  
…っ

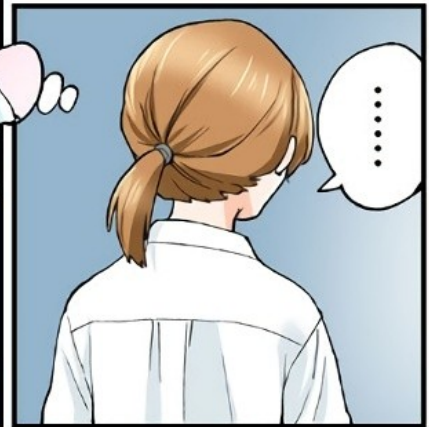


そっですか!?  
ほら見てくだ  
さいよこれ

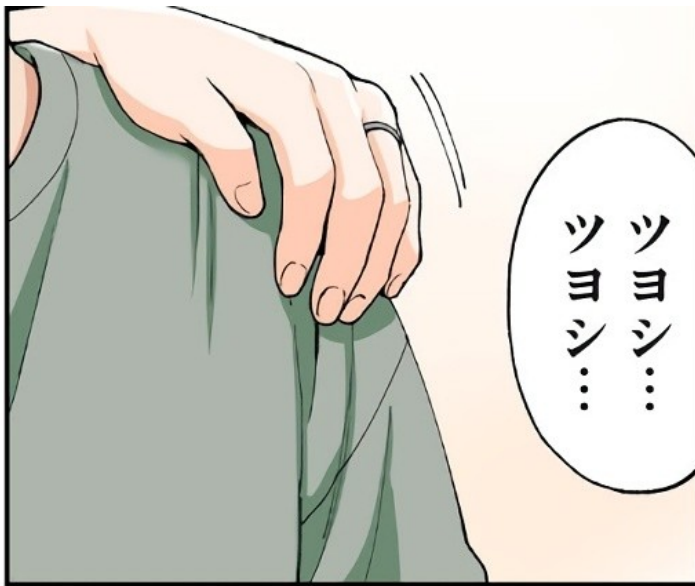


冴えない自分に  
今日でさよなら

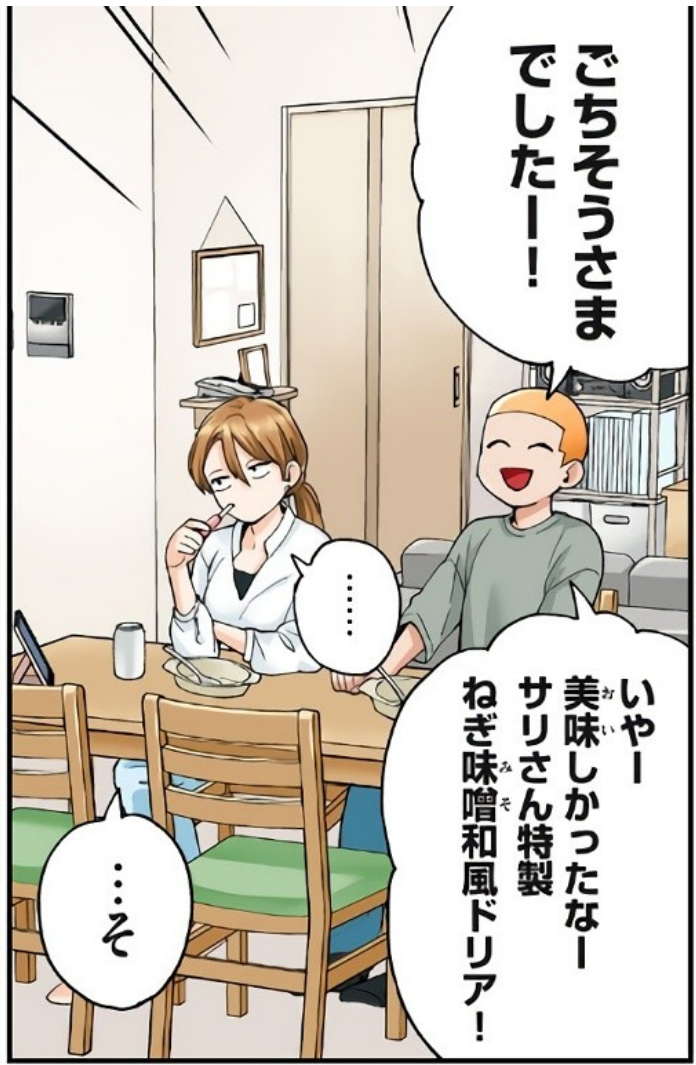
yuki\_beautyhairsalon 冴えない彼の育て  
たんでもつたいない!髪型を変えるた  
てますよ… 待ちしています!















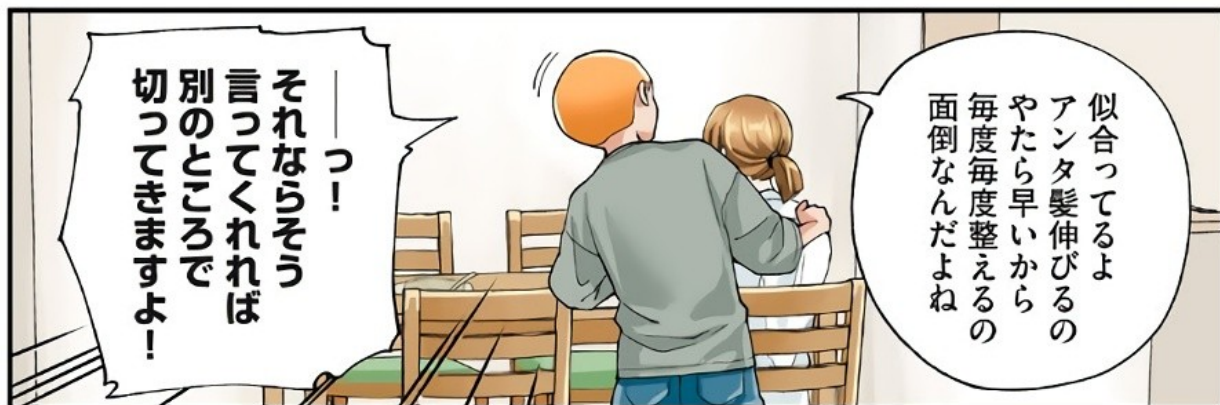
怒って  
ますよね!?

じゃなかったら  
俺の頭  
こんなには  
ならないでしょ!?



てかサリさん  
今日はなにをそんなに  
怒ってるんですか?!

怒ってない  
ってば



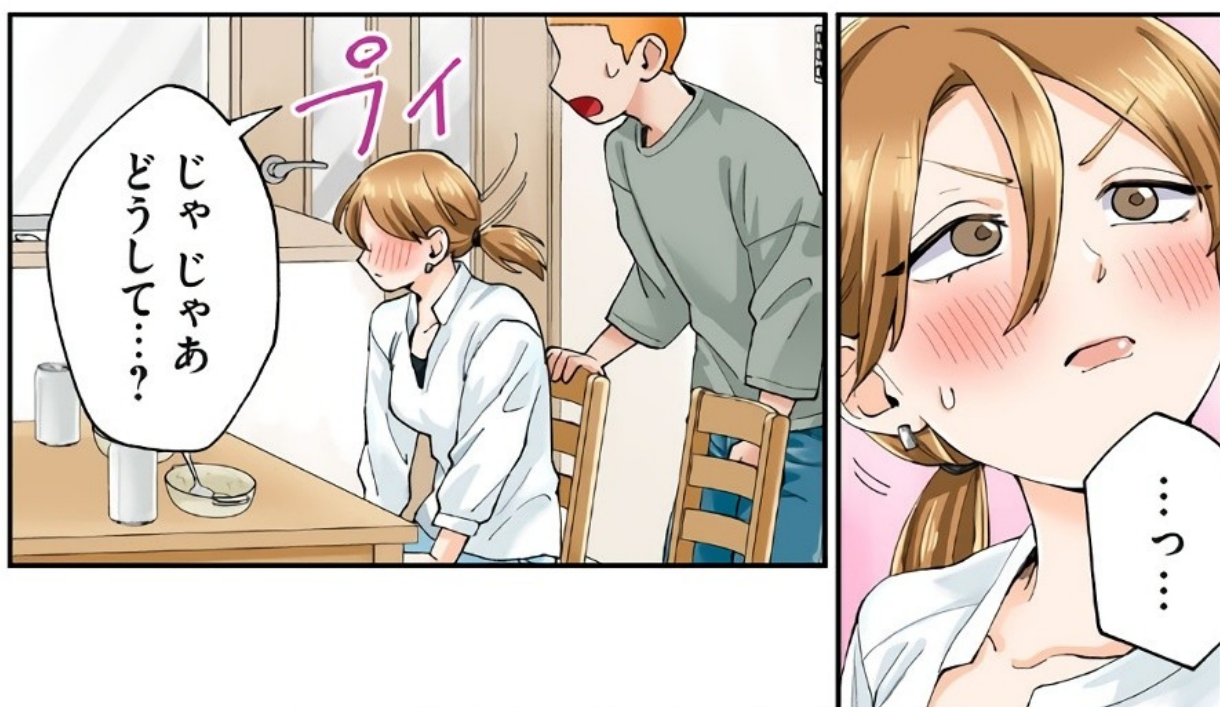
似合ってるよ  
アンタ髪伸びるの  
やたら早いから  
毎度毎度整えるの  
面倒なんだよね

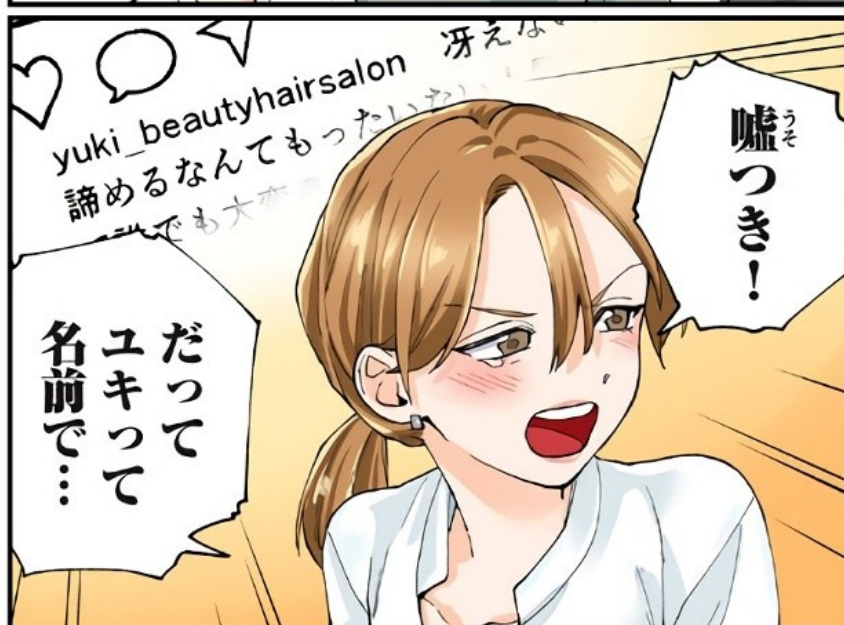
——っ!!  
それならそう  
言ってくれば  
別のところで  
切ってきますよ!



そうね  
あの美容院に  
でも通ったら?

ウチみたいなの  
垢抜けない  
理髪店じゃ  
なくてさ







ほら！



ユウキさん  
ですよ！

大学の後輩の  
彼女が通ってる店の  
美容師で…



はい…  
俺の髪はずっと  
サリさんに  
切って欲しいんで



それに髪型と色  
変えるだけで  
カットはしないって  
いうから練習台  
引き受けたんです

え…？  
切ってないの？



でも迷惑だって  
言うなら  
別の店で…

ツ



ずっと…  
私に…

キュッ



ごめんなさい  
ツヨシ!

私ったら勘違いで  
勝手に嫉妬して…

**ガッ  
ぱん**



嘘!  
さっきのは嘘なの!

**ガッ  
ッ**



みつともないよね  
いい歳してこんな…  
嫉妬深くて  
寂しがりで…  
でも…



サリさんが俺に  
ヤキモチを…!?

**ドキ**

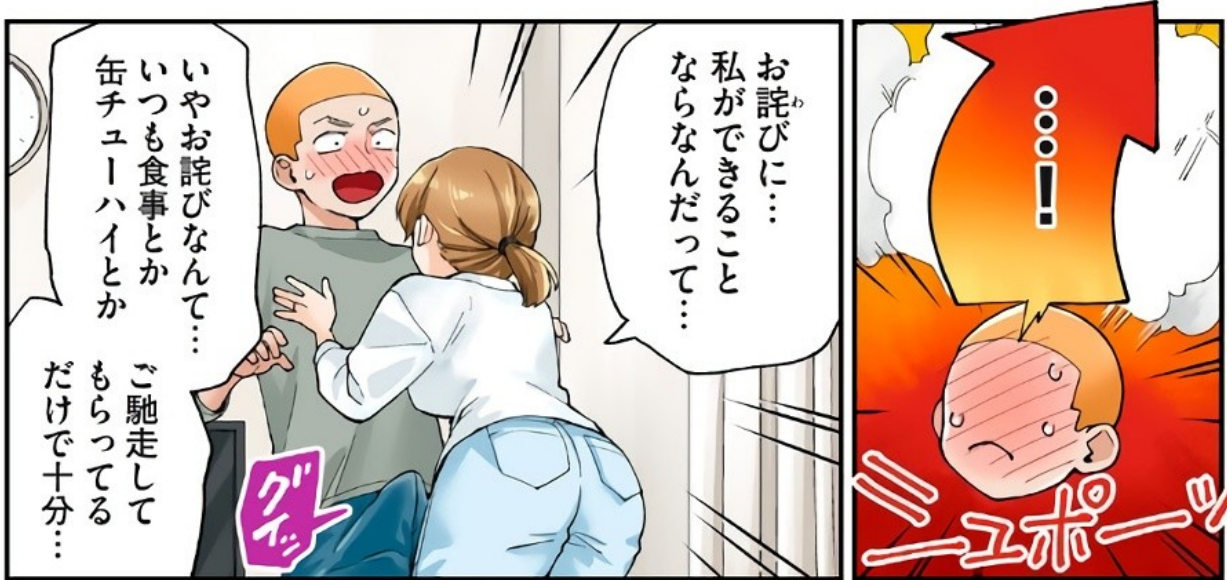
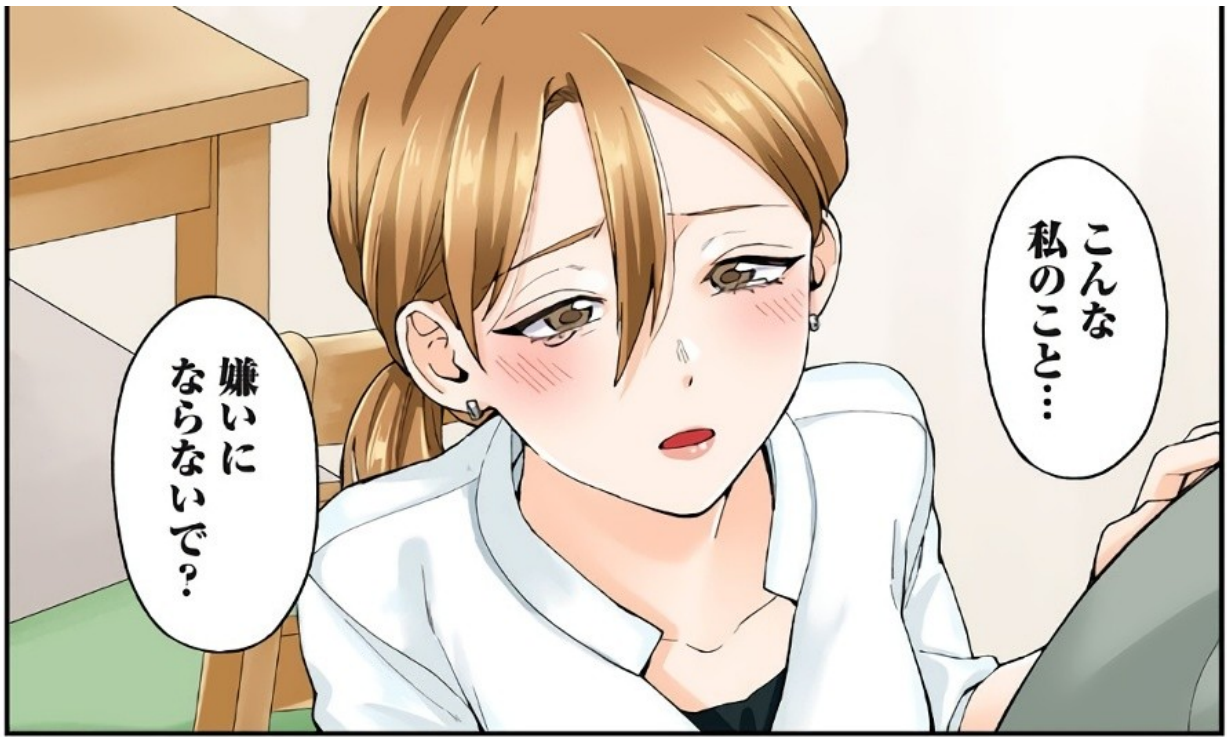
**ドキ**

**ドキ**



他の若い女に  
ツヨシの髪切られるなら  
いっそのことって…!

**ボリッ…**





ごめんなさい…  
ごめんね…



さ…サリさん…?

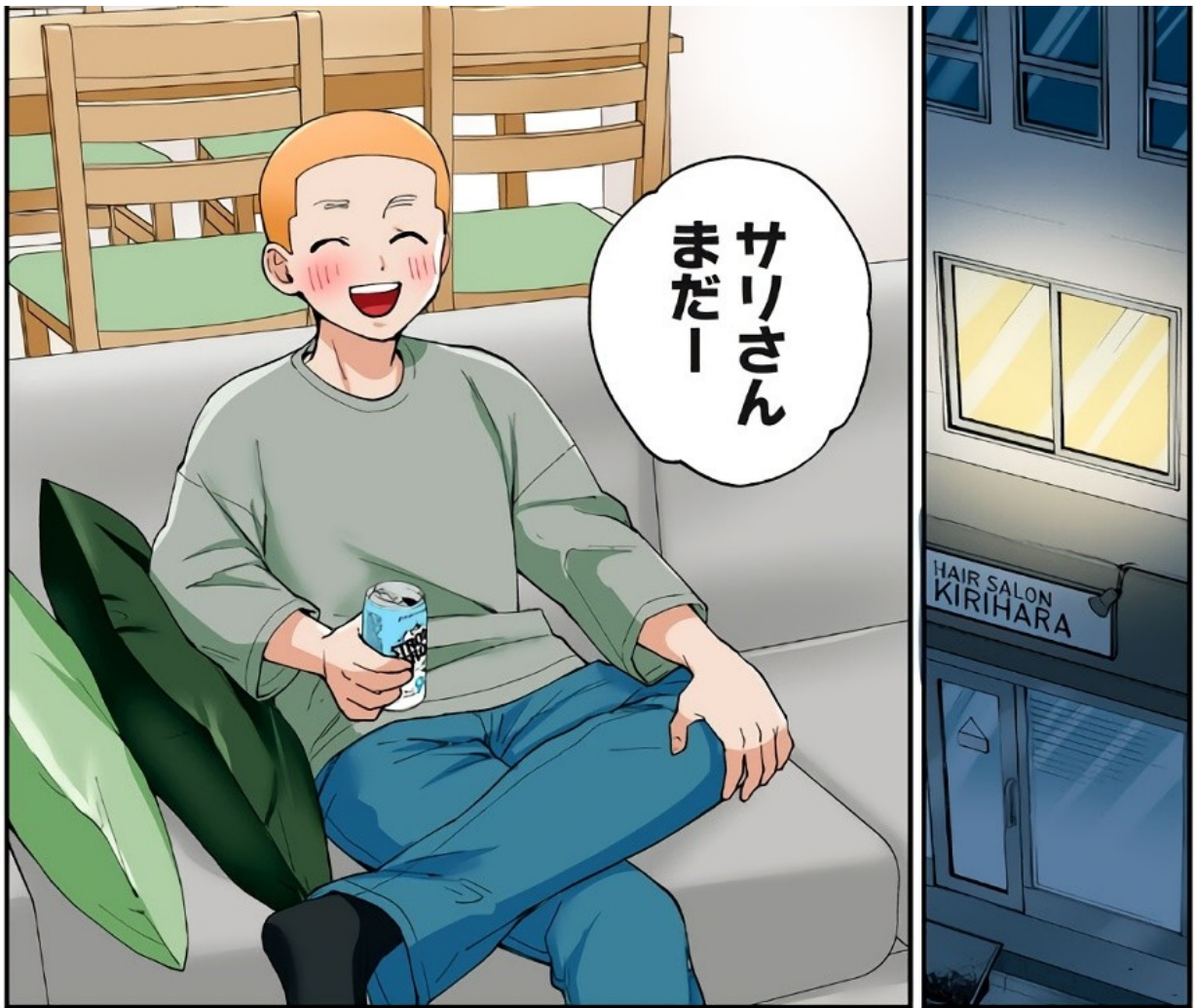


謝りながら  
俺のを!?

サリさんが…

人妻の唇は  
缶チューハイの  
味がして

---





おおおお！

これが  
サリさんの…



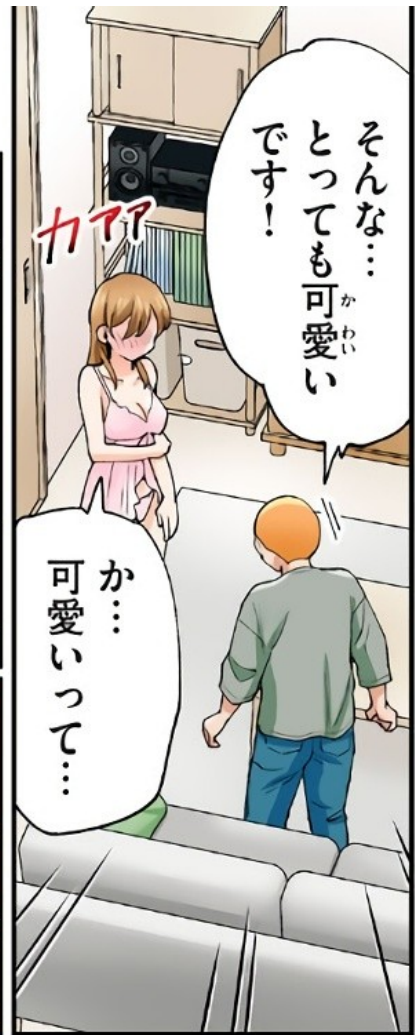
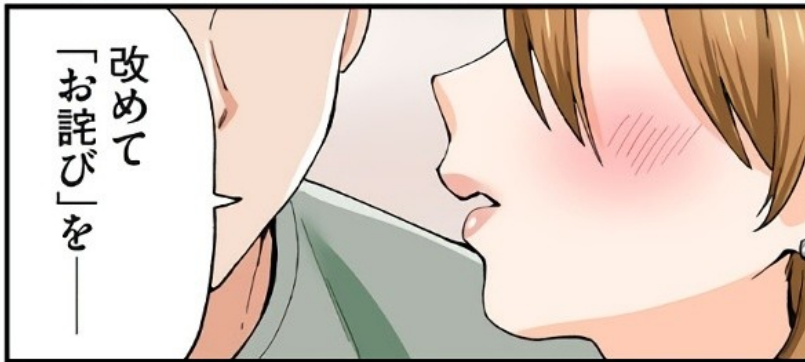
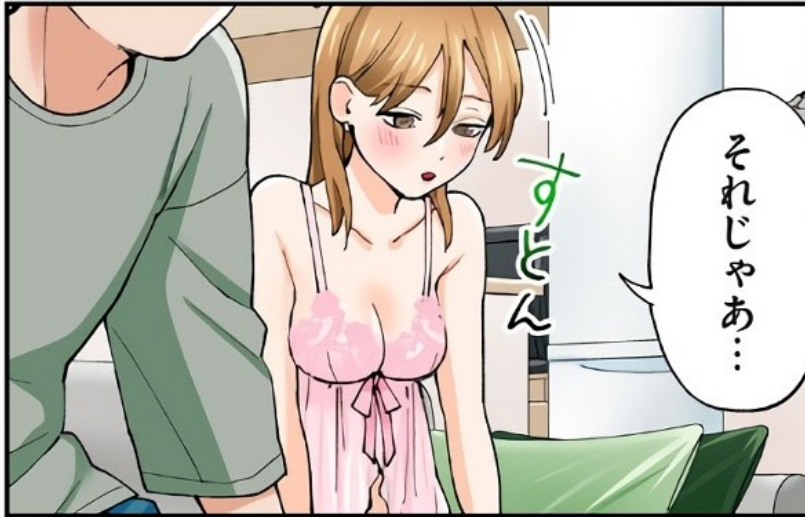
お待たせ…  
ツヨシ

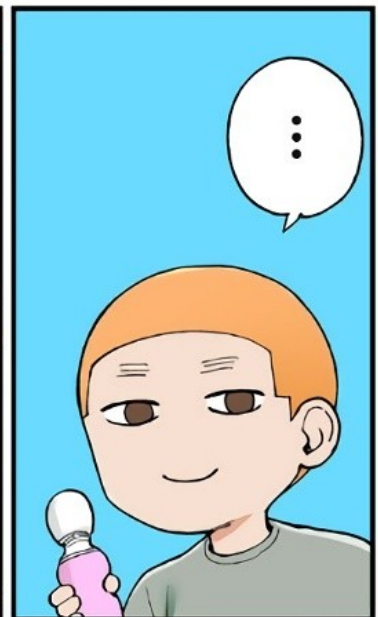


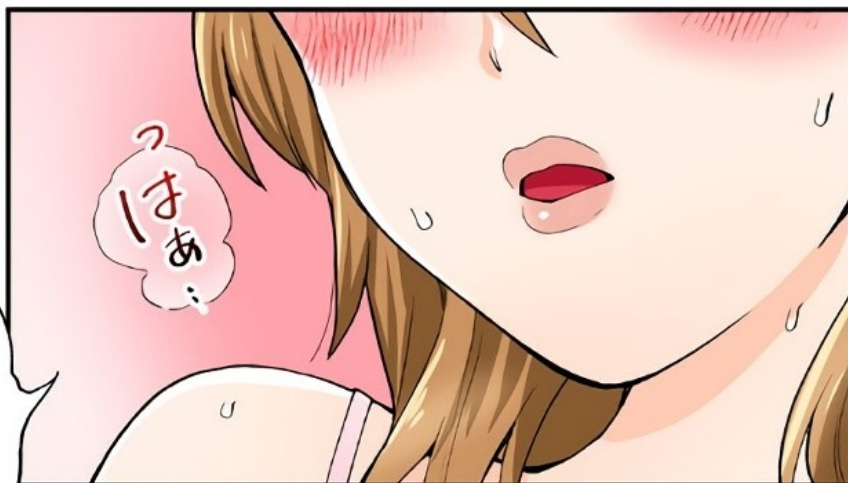
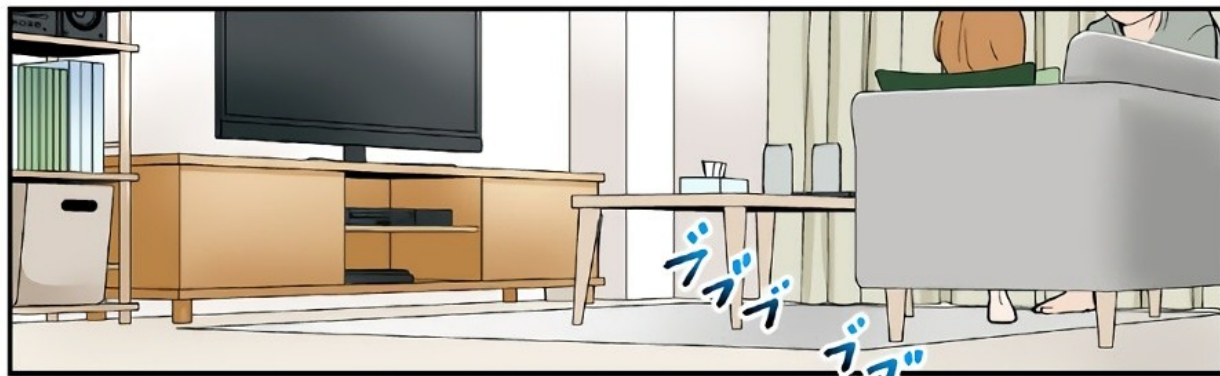
いくら「お詫び」  
だからって…  
似合わないだろ？

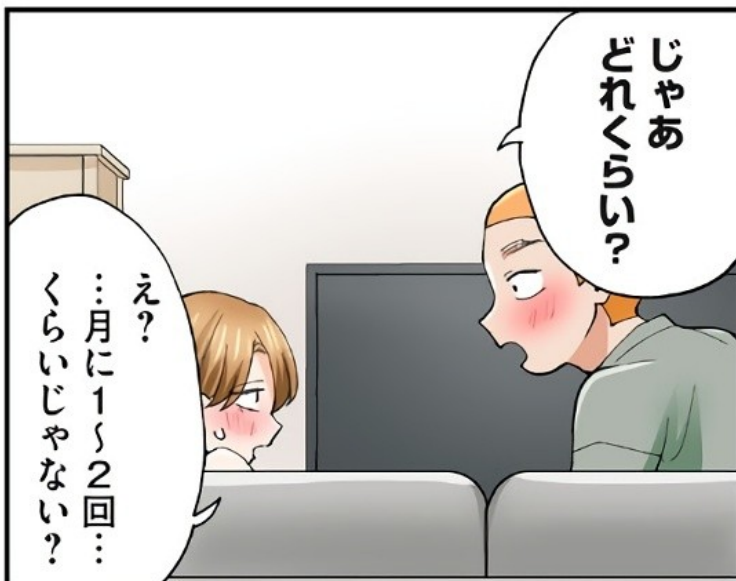


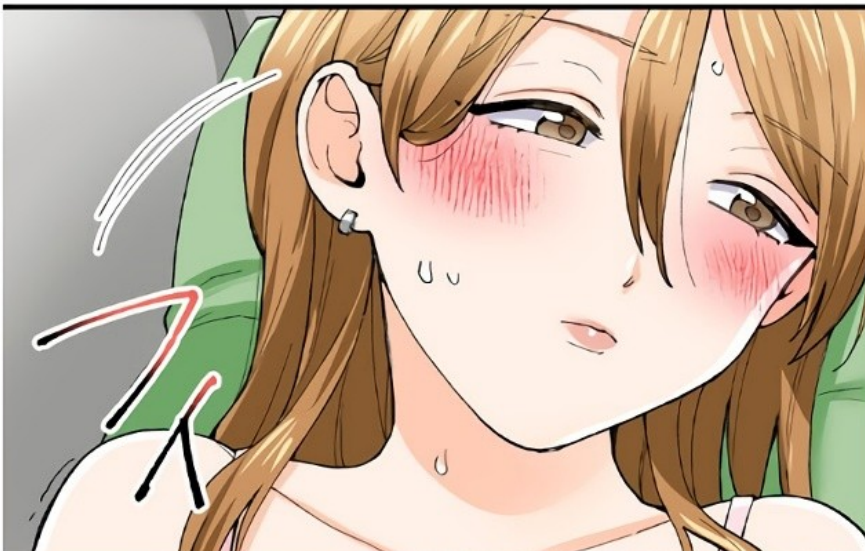
ひどいよツヨシ…  
こんなおばさんに  
若い頃の  
勝負下着  
つけてみせろ  
だなんて

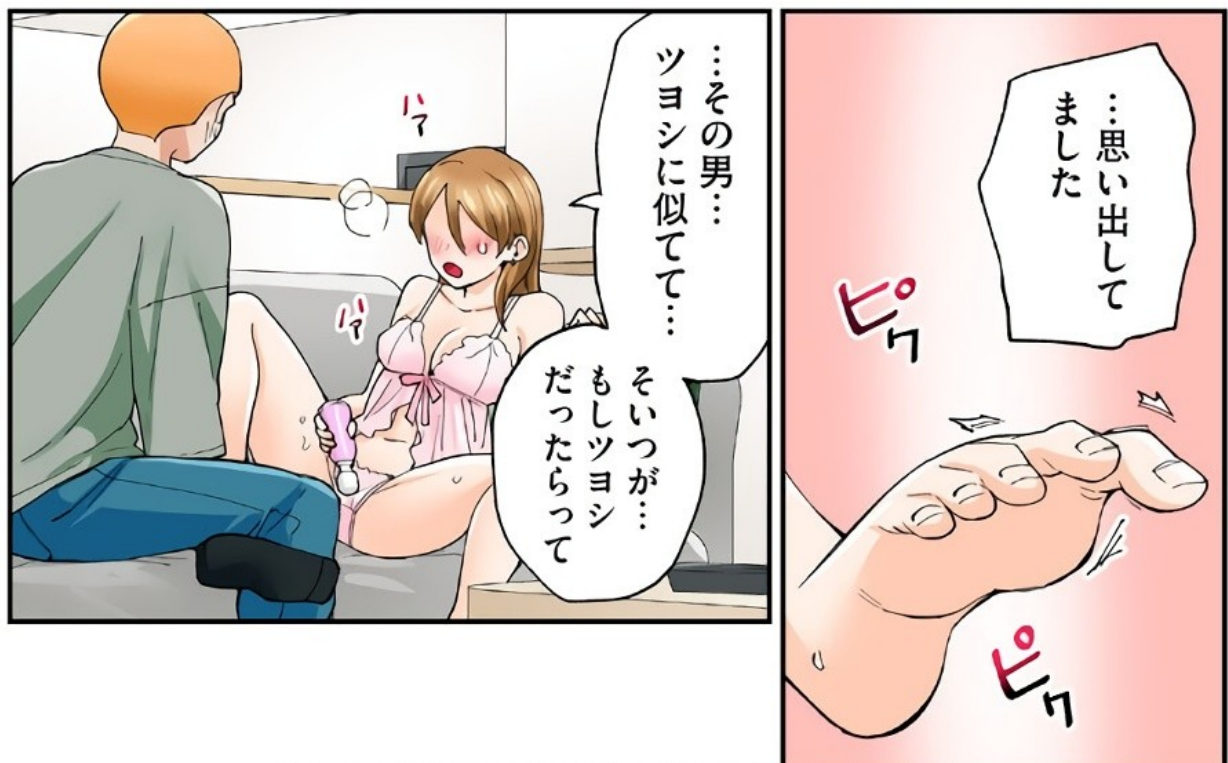
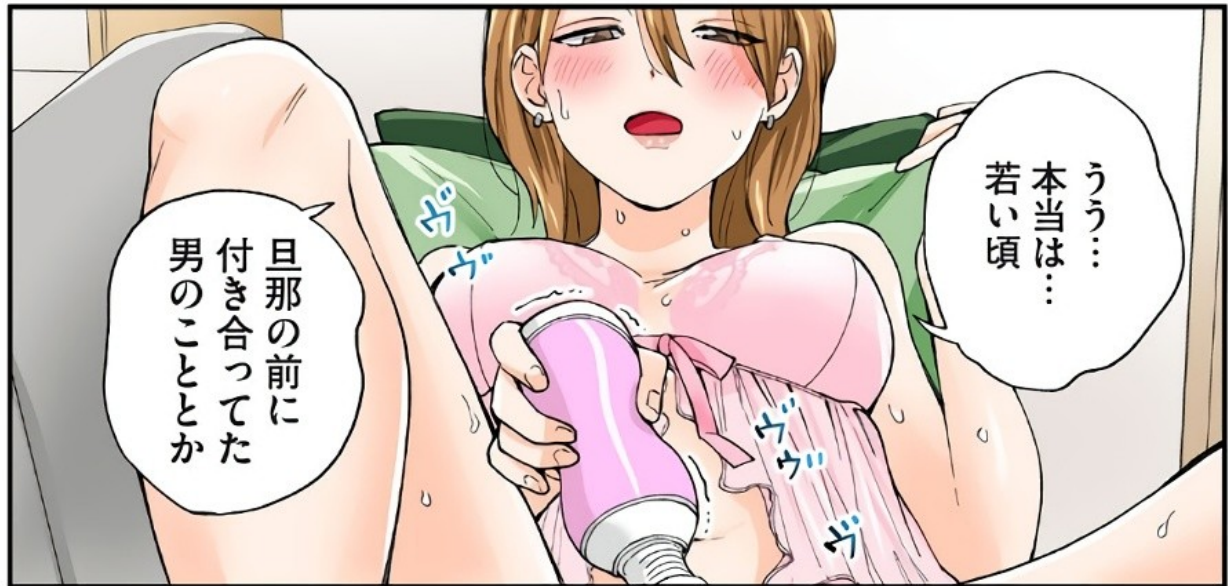
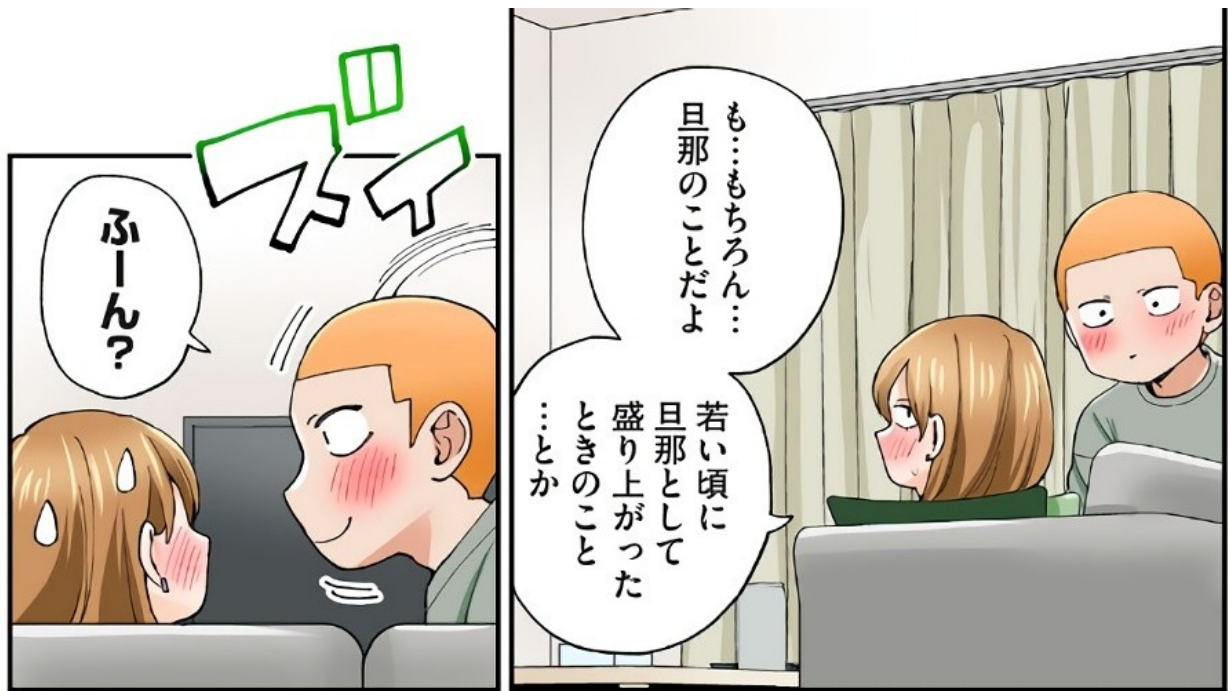


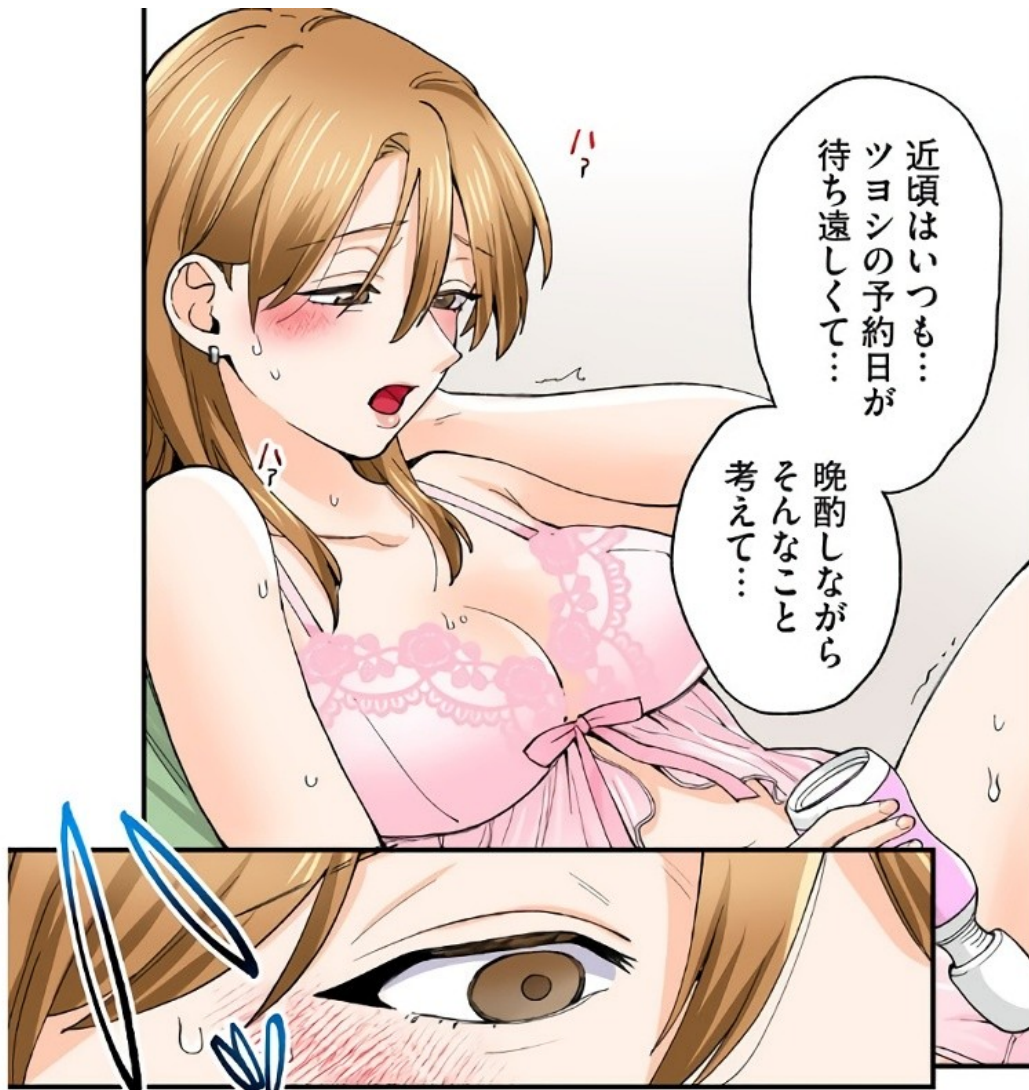












近頃はいつも…  
ツヨシの予約日が  
待ち遠しくて…

晩酌しながら  
そんなこと  
考えて…



ツヨシと若い頃の  
私が…もし付き合っ  
たらって…♥



……サリさん!!!

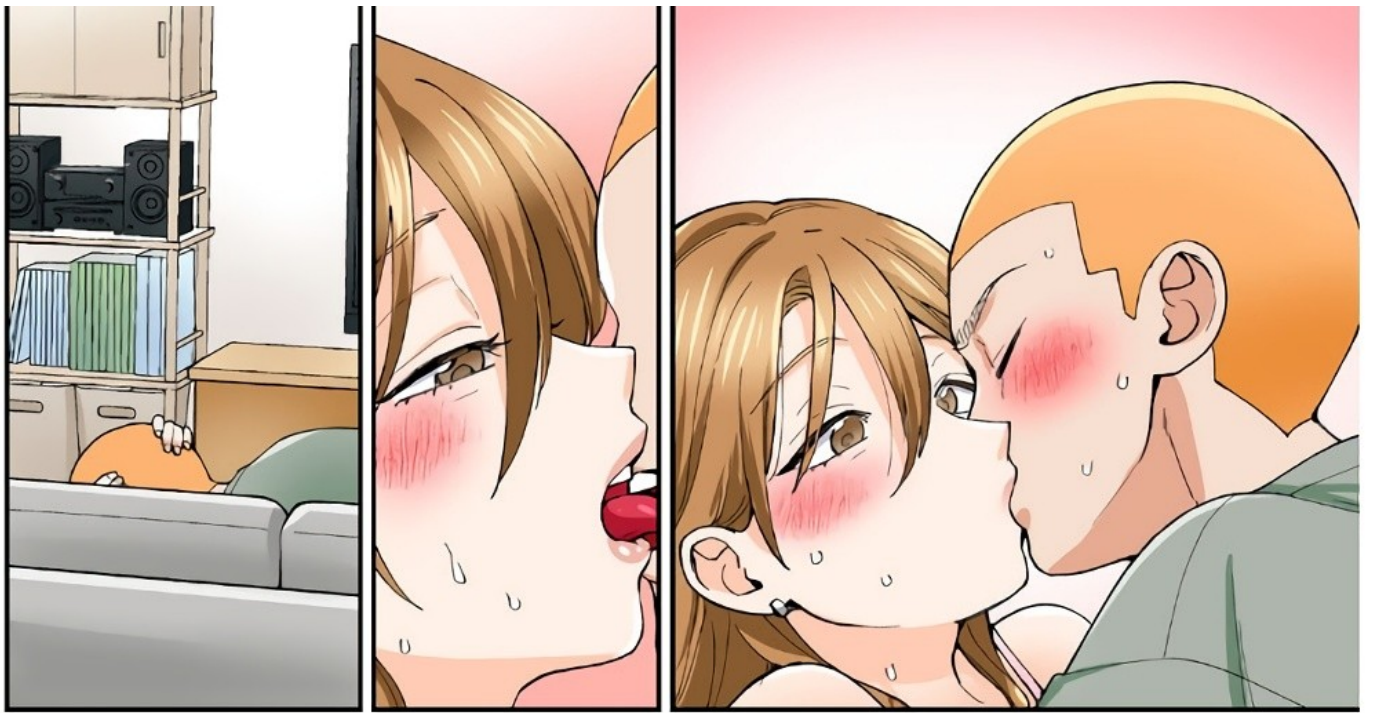
勝手にそんな  
想像されてたらさ…



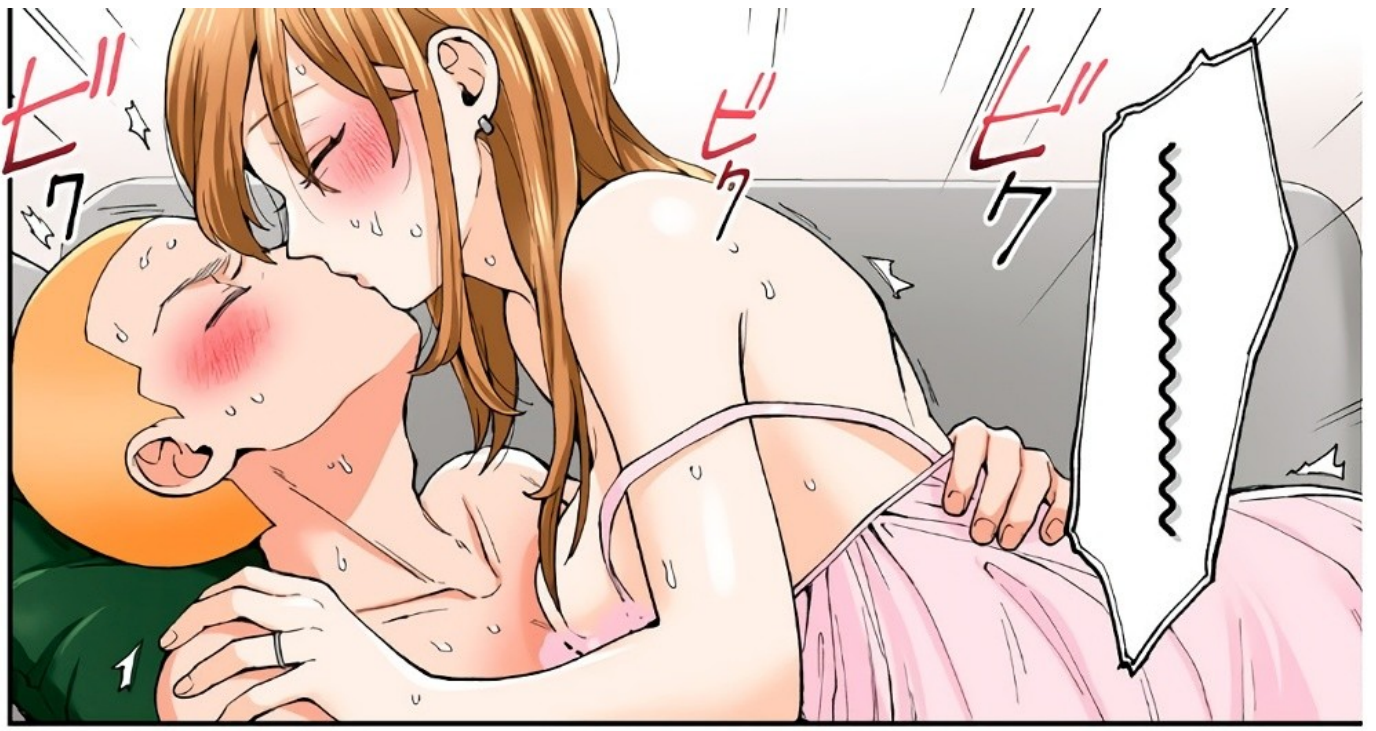
……

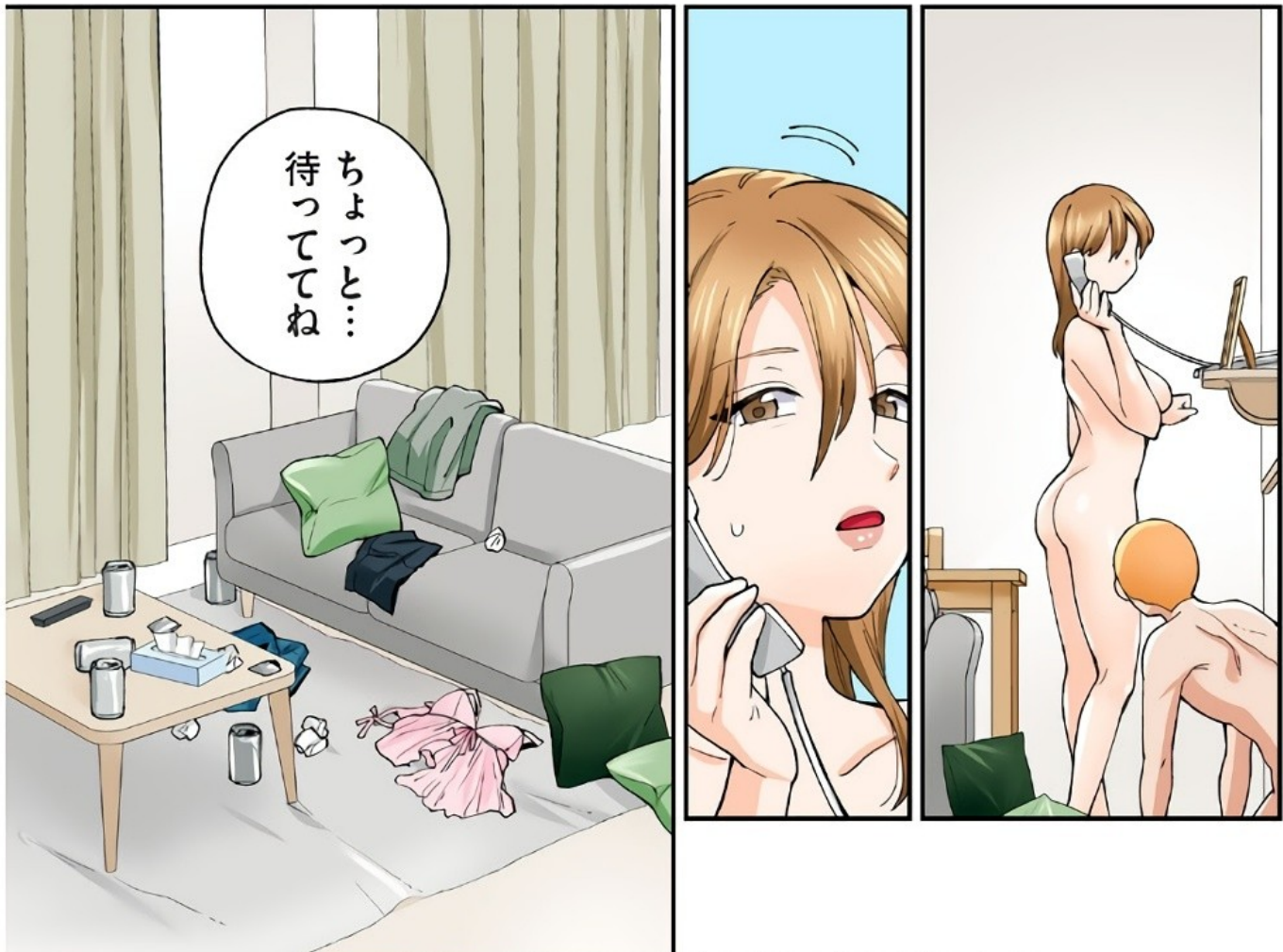
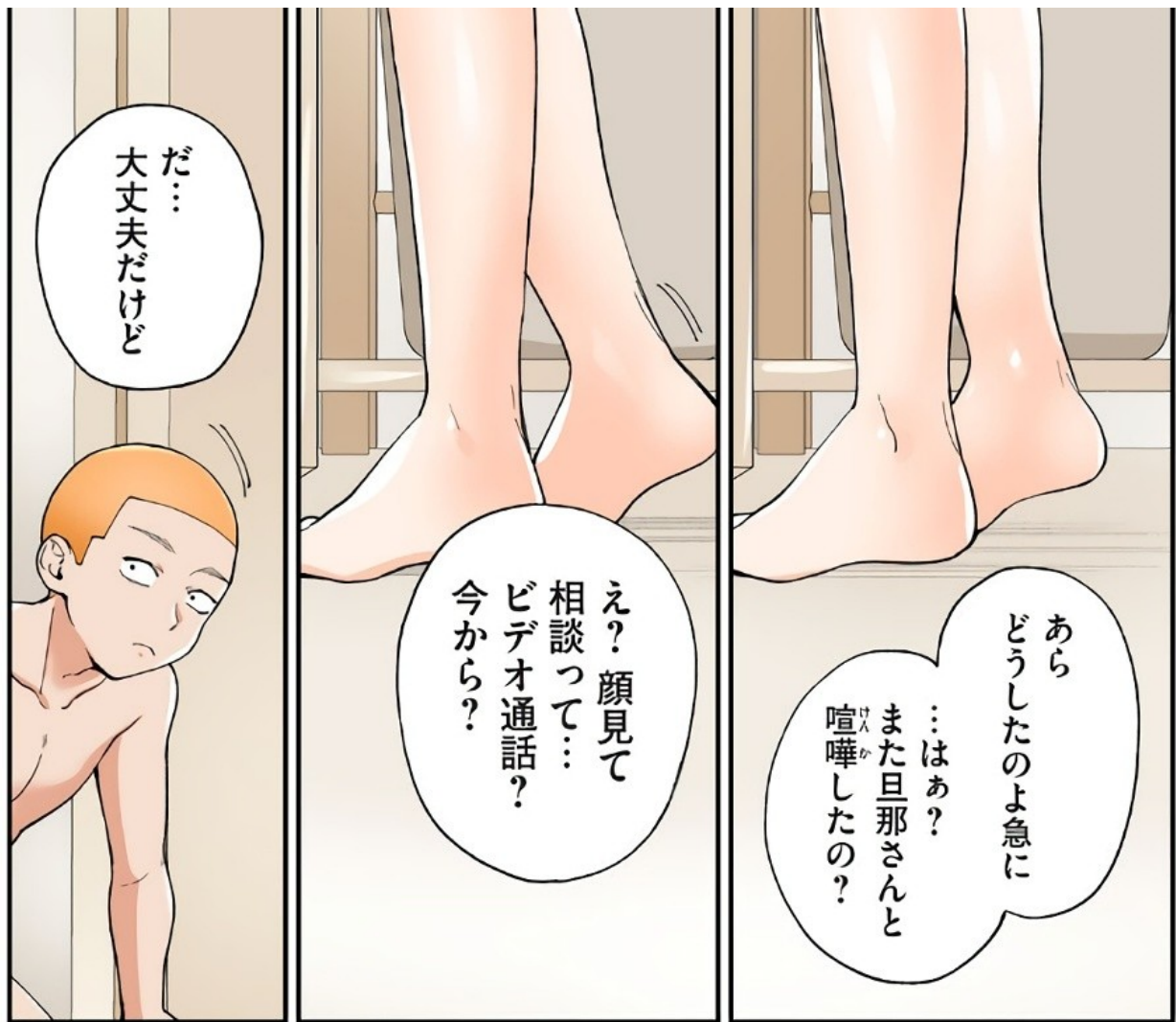
ご…ごめんね？  
引くよね…

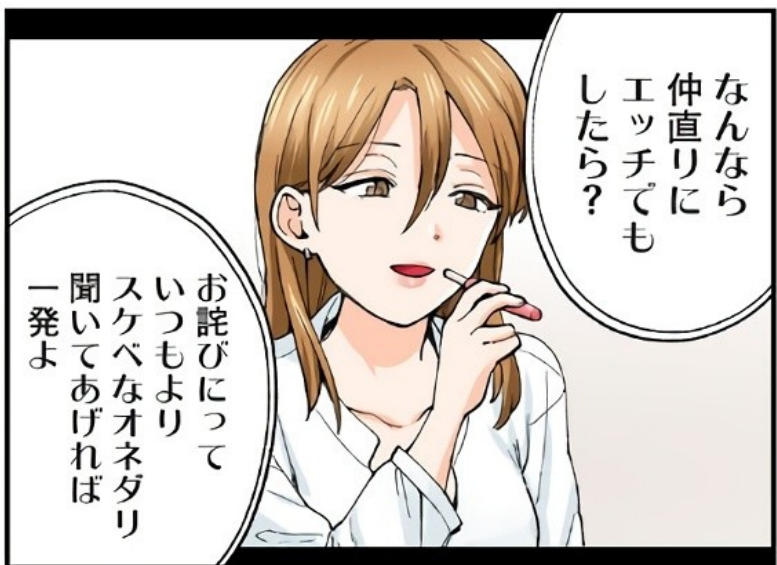
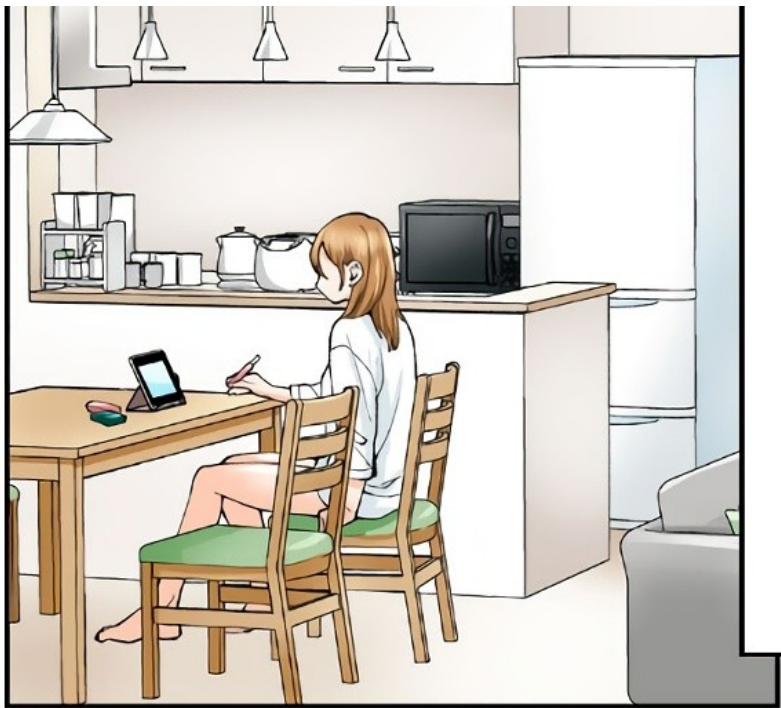
こんな歳の離れた  
おばさんに…







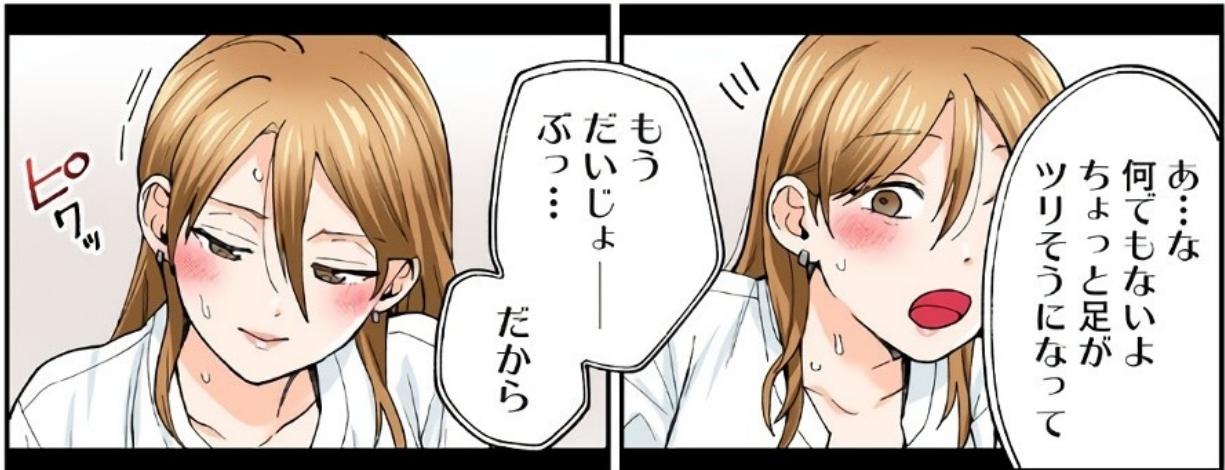






んん!?

ちよ…  
なにしているのよ  
ツヨ—



あ…な  
何でもないよ  
ちよっと足が  
ツリそうになって

もう  
だいじょ—  
ぶっ…

だから



顔が赤い…そう？  
さっきまで少し…  
飲んでたからかも



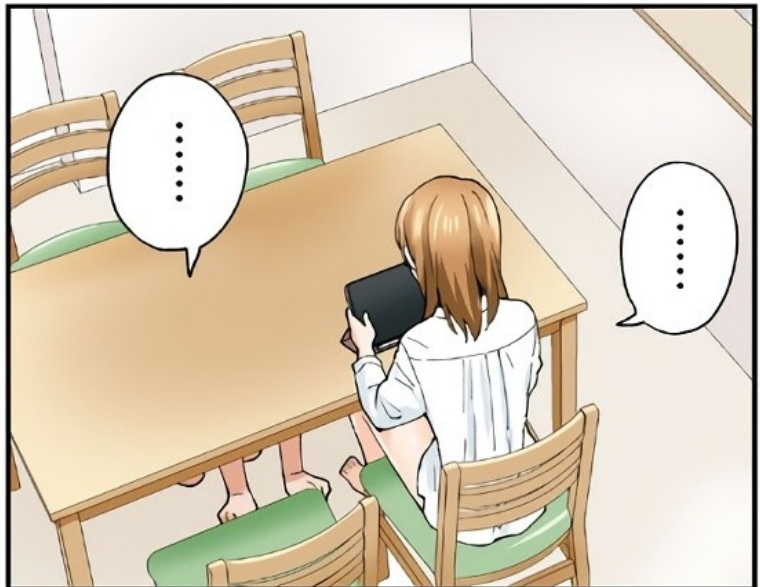
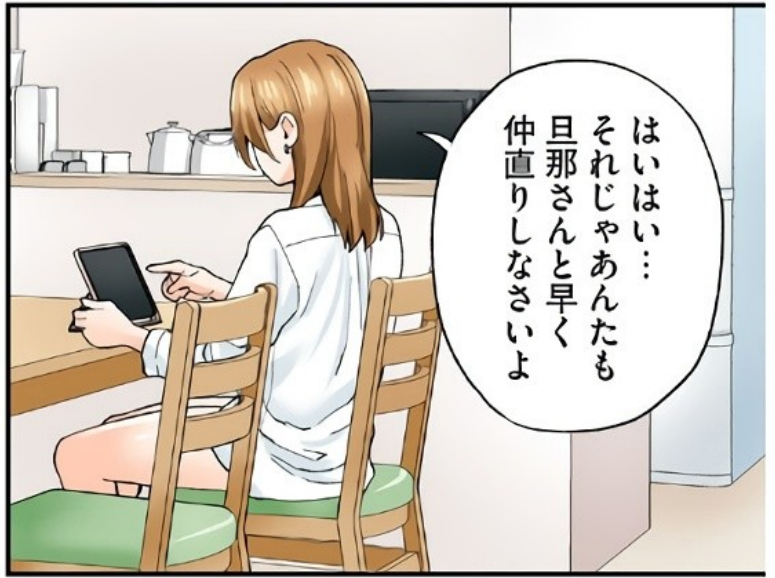
わかってるよ…  
気をつけるってば  
この歳で…  
溺れたり  
なんか…

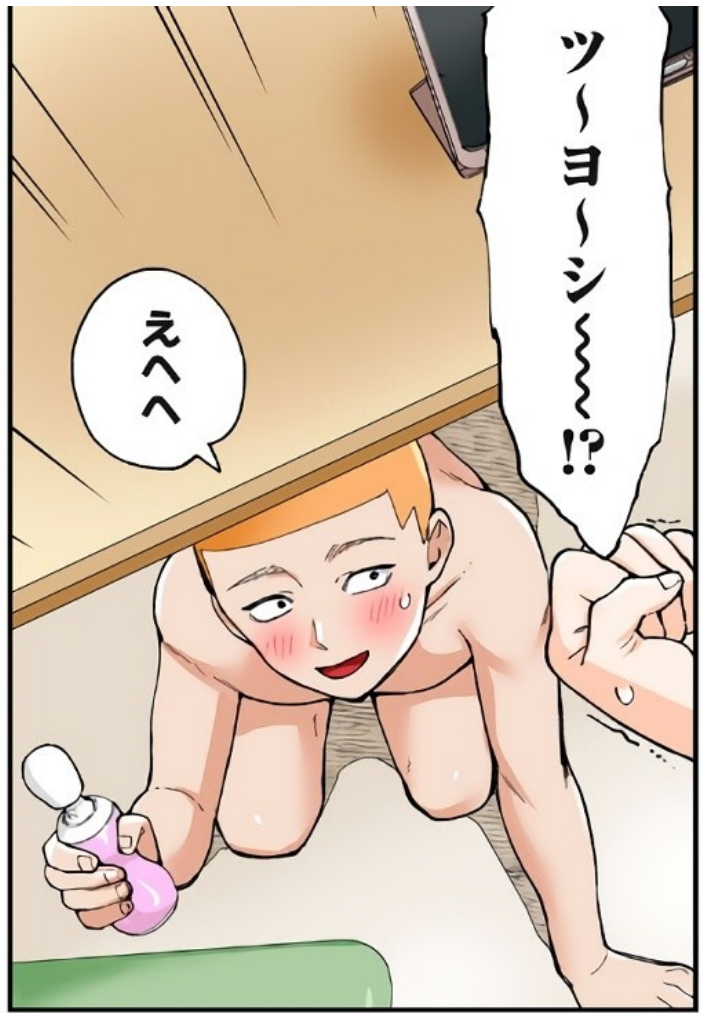


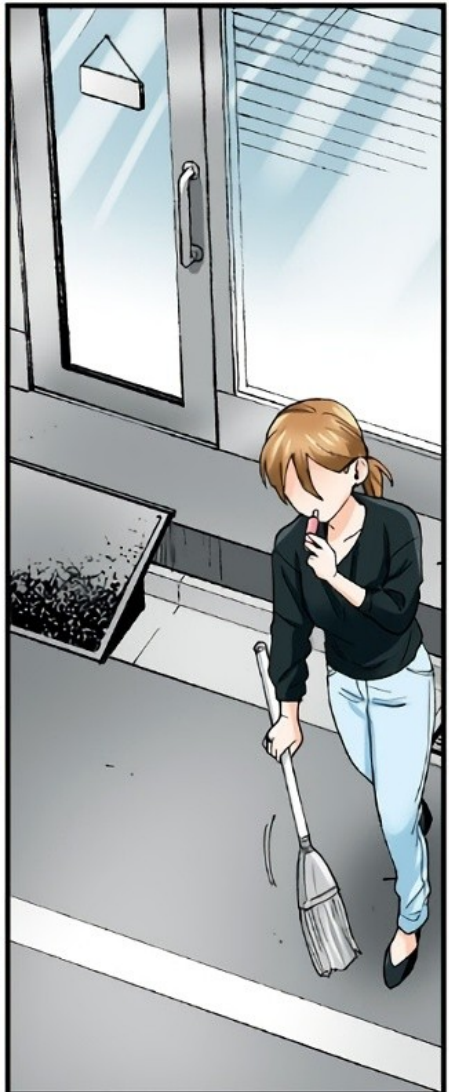
バイブ音が聞こえる？  
あああ…  
ケータイのアラームが  
鳴ってるみたい

なんか  
間違えちゃって  
止まらないのよ

お母さん相変わらず…  
ん…機械音痴だから









また予約して  
いきなさいよ



...



じゃあ  
許して



ちよんぎる  
からね



もし他の女に  
切らせたり  
したら...

人妻の唇は  
缶チューハイの  
味がして

---